

学校番号	3
学校名	博多小学校

平成 28 年度 博多小いじめ防止基本方針

1 いじめ防止等に対する基本姿勢

「いじめは、どの学校でもどの学級でもどの子にも起こり得るものである。」という認識のもと、児童生徒が「いじめのない明るく楽しい学校生活」を送ることができるように、「いじめ防止基本方針」を策定した。いじめ防止のための基本姿勢として、以下の 3 つのポイントをあげる。

- (1) 児童一人一人が、自分の居場所を感じられるような学級経営に努め、児童との信頼関係づくりに努めます。
- (2) 「いじめは、断じて許さない」という姿勢を様々な場面で児童に伝えます。
- (3) 児童の日常の表情や行動の変化に気を配り、常にアンテナを高く保ち、いじめが疑われる段階から対応します。

<博多小 いじめゼロ宣言>

- ・いじめゼロでみんなの笑顔を広めます
- ・いじめにつながる言動を しません させません ゆるしません
- ・一人一人のちがいを大切にします

2 いじめの未然防止（未然防止のための取組等）

(1) いじめを生まない教育活動の推進

- いじめ防止対策は、被害者・加害者を発見することだけを目的とするのではなく、すべての児童がいじめに巻き込まれる可能性があるものとして全員を対象に事前の働きかけ、すなわち未然防止の取り組みを行うことが、最も合理的で最も有効であることを基本に取り組む。
- 未然防止の基本は、すべての児童が安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくりを進めることである。（自己有用感の育成）
- 具体的には、わかる授業づくりを進める。すべての児童が参加・活躍できる授業を工夫することを、あらためて第一に行っていく。
- 児童の生活する環境を清潔に保ち、清掃指導などを含めて、教育環境の整備を進めていく。（もくもく清掃活動の指導充実、きれいな掲示物・校舎）

(2) 地域・家庭，関係機関との積極的連携

- 学級懇談会やP T A地域委員会・学校サポーター会議等を通して，学校内外での児童の実態を把握するなど，適宜協力を得，連携して対応にあたる。
- 必要に応じて，専門機関と連携したかかわりを持つ。

3 いじめの早期発見・即対応（いじめの兆候を見逃さない取組等）

- (1) いじめに関する早期発見のための措置や相談体制の整備，被害児童の権利等を擁護する。
- (2) いじめの問題に対する月光の取り組みの充実のため，「いじめ対応マニュアル」及び「いじめの早期発見の手引き」の活用の一層の徹底を図る。
- (3) いじめに関する早期発見のための措置や相談体制を整備する。

4 いじめに対する措置（ネット上のいじめを含む）

- (1) いじめ被害児童のケアを最優先とするが，被害児童，加害児童ともに正常な学校生活を送ることができるよう，改善をすることを基本とする。
- (2) いじめは被害者にも問題があるとの考えに陥らないよう，十分な注意を払う。
- (3) いじめへの対応は，基本的には「いじめ対策委員会」を中心とした組織にあたる。
- (4) 状況や対応の経緯について，客観的な事実確認を行い，その結果を速やかに教育委員会に報告する。
- (5) 学校だけでは対応困難な場合，教育委員会の支援チームの活用を行い，いじめ問題の早期解決に努める。
- (6) 被害児童の権利・利益を擁護するための配慮として，区域外通学や別室指導など柔軟な対応に努める。

5 重大事態への対処（いじめ防止対策推進法 第28条関係）

児童の生命，身体又財産に重大な被害が生じるようなものについては，教育的配慮や被害者の意向を配慮の上，想起に警察に相談・通報時，警察と連携した対応を図る。

6 いじめ防止のための職員研修

- (1) 教職員のいじめ問題に関する資質の向上を図るため，教育委員会と連携し，学校基本方針の共通理解，いじめの防止などのための対策に関する校内研修を実施する。
- (2) 「いじめ対応マニュアル」，教職員向けリーフレット「いじめゼロに向けて」や「いじめの早期発見・早期対応の手引き」などを活用し，自らの対応を振り返るよう教職員への指導徹底を図る。
- (3) いじめ未然防止のために，Q-Uアンケートの分析活用のための校内研修をする。
- (4) Q-Uアンケートの実施後，情報を組織的に共有し，支援方針を明確にする。

(5) ネットに関するいじめの校内研修をする。

7 その他（各取組のPDCAサイクル等について）

- (1) 学校基本方針作成の際に、保護者等地域の方の参画や児童生徒の意見を取り入れ、児童生徒や地域を巻き込んだものとする。
- (2) 学校基本方針は、学校のホームページや学校通信等で広く周知を図る。
- (3) 学校基本方針に基づき、取組が適切に機能しているかを学校いじめ防止対策委員会を中心に点検し、必要に応じて見直しを行う。

8 いじめ防止等の対策のための組織（いじめ防止対策推進法 第22条関係）

(1) 組織の名称・役割

- 名称 博多小学校いじめ防止対策委員会
- 役割
 - ・ いじめに関する情報の収集及び共有。
 - ・ いじめ事実の確認。対策案を練る。
 - ・ 該当児童への指導、該当保護者への対応。
 - ・ いじめ防止及び早期発見のためのアンケート調査の実施と結果分析
 - ・ 学級への指導体制の強化、支援。
 - ・ 外部組織への協力要請、又は、警察への通報。

(2) 組織の構成（別添資料1参照）

校長，教頭，教務担当主幹教諭，生徒指導担当教諭，養護教諭，SC，該当学年教諭

【PTA】会長，副会長，役員など

【地域】青少年健全育成連絡協議会代表，子ども会育成連合会代表，民生委員など

【専門的な知識を有する者】心理・福祉の専門家など

9 重大事態発生時の調査機関（いじめ防止対策推進法 第28条関係）

(1) 組織の名称と役割

- 名称 博多小学校いじめ防止対策委員会
- 役割
 - ・ 重大事態発生について教育委員会への報告
 - ・ 重大事態に係る事実確認の調査
 - ・ 調査結果を教育委員会へ報告
 - ・ 調査結果について関係児童生徒及び保護者への情報提供

(2) 組織の構成

※ 校長，教頭，教務担当主幹教諭，生徒指導担当教諭，養護教諭，SC，該当学年教諭

【PTA】会長，副会長，役員など

【地域】青少年健全育成連絡協議会代表，子ども会育成連合会代表

民生委員など

【専門的な知識を有する者】 心理・福祉の専門家など

10 いじめ防止等の各取組の年間計画（P・D・C・Aを記入）

月	児童生徒等への取組 及び児童生徒の活動		職員研修等		チェック
4	学校生活アンケート	D	いじめ防止基本方針作成 いじめ防止対策委員会	P D	
5	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 家庭訪問	D D	
6	Q-Uアンケート 教育相談アンケート 児童会による取組 (いじめ0)	D D PD	校内いじめ防止対策委員会 教育相談	CD D	
7	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 個人懇談会 夏季研修（Q-U事例検討会）	CD CD ACD	
8	いじめゼロサミット 2015 参加	D	校内いじめ防止対策委員会	CD D	
9	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 学校サポーター会議	CD CD	
10	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 前期の取組反省確認 教育相談	CD C D	
11	学校生活アンケート Q-Uアンケート	D D	校内いじめ防止対策委員会	CD	
12	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 個人懇談会 研修 学級集団作り	CD D	
1	学校生活アンケート 児童会による取組	D CA	校内いじめ防止対策委員会	CD	
2	メディア教室（保護者含む）	D	校内いじめ防止対策委員会 学校サポーター会議	CD C	
3	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 年間取組反省確認	C C	

※いじめゼロ取組月間は1学期に設定すること。

※いじめ防止等の対策のための組織の構成員のうち、学校の教職員のみで行う「校内いじめ防止対策委員会」は、月に1回開催。

学校外の関係者を含めた「〇〇小（中）いじめ防止対策委員会」は、学期

に1回開催。 <チェック欄は、A・B・Cを記入（Aが上位）>